中村俊定文庫
文庫 18
929

昭和天皇御愛蔵書

宮内庁書陵部

昭和天皇

陵定藏

宮内庁書陵部

陵定文庫

十一

俳諧連歌

五圍

都　名不俳諧連歌

春日　花のもとはしまる開乃第一二

奈良　遠紙とらまて垂き日ぬ乃き展

長濱　真の乃和歌もあるさん　同

若　宇まりて屋むる十姫書　圍

春豆　四条遠のく紙ら日ぬ友　同

丹生　雪ちらくと水乃月新　展

風破　独込ま与初桜の風結て　同

ふるくる地と乃ぬ穴おりを　圍

蟇
猿乃面 紙をのまして御剣をて 圓
宇治 瘡瘡やうのもとやうの 辰
宇陀郡 ゑ紙をあのよりあらき 日
丈賀 近津みあひ河まの中 圓
乃龜 ひく井筒のつもり数ひ別 日
椋 ゑまをて白たてをあの 朔 辰
淺草 法男乃椋鯨鬼い朔乃高地 日
志乃濱 おくれや志ろまれ ら龜 圓
寺羽 月ゑのたや ゑまるを椋ゑを 日
淀 殿を紙結椋ゑ椋り也 辰
三津 椋まの ゑ紙ゑ月ゑつるや 日
難面 文乃椋をて八寺をろ民 圓
五殿淀 因人八ゑ流罪ゑ椋れ 日
宇治 公卿ゑ ゑまゑまゑ中 辰

野上
長谷 椋ゑ長ゑ椋ゑ門ゑ 圓
志ゑ 三味線ゑ椋ゑ門ゑ 日
宇面 ろるゑや ゑ紙ゑ 辰
鞘 あるゑれ業ゑ欲ろ 日
戸隠 と椋邪ゑ酒八椋ろ淀 圓
垂水 傾椋ゑ紙ゑおりゑ 日
紙ゑり 椋やろ椋ゑ文乃ゑ 辰
淺香 ゑゑ紙義乃ゑ淀ゑ 日
伊加流 ゑゑ志ゑ紙ゑ義士 圓
武庫 一撞ゑあるゑん椋ゑれ 日
須磨 四方ろゑゑ寺乃淀家 辰
法賀 椋ゑゑ紙椋ゑゑ 日
器面 椋ゑ非紙加ゑゑ椋ゑ 圓

佐渡
冷しく搾乃ち汐うちうるき 圓
和古
きそいつもしんをう脇か祢 辰
姉拵
室行をハなそね雨れ高り 円
伊吹
仏世事紙いつ絵乃動進 圓
れ京
西人もとろふ量陸の粉て 円
伊加保
配てゆ清乃ふもいう絵 辰
愛奈
いそ西このきゆらゆうう河ふれ 円
交聖
はうるれ感法る新の世や 圓
聖例
うるのむと安うう池 円
三輪
御 ふそ乃ふうね三円乃間 辰
敷賀
うけうつう学八醤ろれおよは 円
八俣
をうもね為よやせかそう人 圓
化野
月紙をはうこの者とあ陰て 円
隈方
あ宇まれうれ戒ふすまね 辰

真野
鹿のうきれうう江ふ含 辰
飯防
はまうのせきけやもう決拵 圓
冨士
都ふ乃やまいい人絵ふ彩毛に 円
清間
市紙ふそうう新八清ゆう 辰
日吉
小源ふれあうひうくこまう 円
彩田
乃のこれ度に嬰や中き 圓
交協聖
為書これ後のもやうふ 円
那波
うう乃ふもは行新の鎖 辰
拵文
まうう拵の美や絵ふあん 円
三井
月ふこ彩くとうやこのう人 圓
愛子
湯乃山の拵ふひまえを て 円
布面
くうふ絵ふうふうふれ文 辰
立聖
友達れかうふれ月れお 円
乃門
ふうふ西ふうふ年れ拵 圓

奉

栗産 [illegible]

昆湯 [illegible]

長服 [illegible]

猿沢 [illegible]

泪川 [illegible]

月林 [illegible]

土佐 [illegible]

[illegible]川 [illegible]

[illegible] [illegible]

き猛 [illegible]

四石 [illegible]

越白根 [illegible]

山科 [illegible]

紀

引津 [illegible]

宝 [illegible]

[illegible] [illegible]

[illegible] [illegible]

井戸 [illegible]

[illegible]海 [illegible]

那良志 [illegible]

西川 [illegible]

[illegible]原 [illegible]

[illegible]面 [illegible]

[illegible]石 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

支井
勢田 唐崎にちかまあてしものの方ハ 風
麻背山 ゆきとまれをしとゝ思ふ山ひとつ 辰
二宮 あらしやまとてむかしをとゝ 月
内野 彩色の中紅ちるのをやハ 風
狭布 霧人ハ人乃中ぬふ宮ゝて 月
与謝 彩色しけのさゝ山の神滝 月
吹良 わつらハ世乃ゝ思ふ人ゝ 辰
ひとよさて見ぬ人ゝ 月

十二

童竹

春雪

佛男の祇乃園ゝ
花ゝ咲ゝ春ゝ山ゝ藤ゝ 園
紙冊りゝ童乃ゝ 月
しゝゝ 童
住ゝ宿ゝ 月
月ゝ 園
銅ゝ 月
ひゝ 童

一樓にて行の中をうかがへば
まるき護あるぬ國乃果く 圓
あらすして神や倡伽をうたふ 同
ほうこの道より桃花乃人 主
同乃宮のほとりまで出 同
門のもとにきさに晃なるぬ 圓
大江山近き三熊野路 同
いく野のうら紙百姓よりて 主
ちるのもとにきさ半れ散 おつめ 同
ひ雲の初うれ川寿乃古家 圓
秋風よ藤の実まとけて 同
月見れ邪麗乃行を結ふ 主
あちらと蓮れ巣子完 同
破損のうちのもや 圓

同裏にてうたうたんこう 圓
四方乃山 ふるこの川 主
ちちとかすよ水をうらうらせ世れるひ 同
風炉の呈湯かれとにまて 圓
ゆりくとうるのうら宮れ多緑 同
庄屋の家紙あきむけうら 主
学文や家のももうてもうん 同
まうこの侍乃月 雲雅楽 圓
辻くの行とうらと盃にやうて 同
ううとかうれよの内科 主
中弓紙ちし同果の多歌 同
史乎と祈で史行のけ 圓
主あうこうもむうとて 同
南蛮人れうこうあ 主

うたれよ猿のとしの宮古まては　重
寺乃門へて酒をのませる　圃
よき程なる遊女にいとま乞はれ　月
あらし風をもいとふ青柳　重
青面を祭るの陰暦(?)かね　月
山の橋なるや紐の旅　圃
川幸に帰(?)とは娘盛(?)と　月
君細日とや神のいろく　重
篭てくきく須磨町の宴りて　月
月もゆるる人乃口言　圃
世のひとに洞の名所乃男も迷　月
秋よしおもひまつる式部ひ　重
石部に蓑(?)挽(?)の道伝ひて　月
いかり町と岩の鉄(?)なる　圃

夢それまつ小玉いせんさと波の底　月
破儀(?)の舟乃おくまる紐よ　重
身もや酒をはらつてなるる　月
本卦とひてきんや町　圃
新墨の史(?)祖(?)まるおやれ　月
様や羅拝まれたるのれめる　重
及ぶさ藻殻のさくみ路まて　月
くらゐあるひ香や親王　圃
いよいよ鏡(?)手のよ結れなく　月
おもくし屏風の花しきさ　重
月影のうつる新席歩ひて　月
秋も出かもし折とけもせぬ　圃
角子みて思ふ候ふ(?)　月
都市のあきくるうなぬそ春文　重

明節の笛ふこそならし哀しれ　全
名残行まぬれ行乃武将そ　圃
うき世人を見て往来に忍ぶされれ　円
同じ中の智恵にさとる庵主　全
またゆかる猿と猿と氣襲へ　円
てくる壇ありや打ち鼓をとせる　圃
人見ハ五斛五行を萬作を立　円
十月同りとてそ子ハ生れ好され　全
秋の末行つなかけし節の端ちる　円
庵も無やこぼるや青白壁　圃
玉山をとし山る雲の夜明り　円
とりりりのわらう庭見あふ咲　全
稀宮や花を見て行を行もれん　円
毒のくちあそさるるき乃基　圃

天狗乃爪節をさそよ行るみて　円
あんまるとうつ男乃形猿よや　全
流さまして独法師を備ひき　円
ちと玄なる手をきれ洞ゆきも　全
かかまい結の乞比すりはむすと衿　円
ちられりまろ兵女の狂乱　全
秋つきさ人のまこ狐の男子みて　円
あふらい鏡つる車ハ轎もひ　圃
やりやうくいふてやしき窓　円
かつてひゆ代しとまひそ　全
秀つくみの猿と鹿く雨月ぬれ　円
緒乃ありあつさふ風もやれて　圃
猿をおいて裏家の縁にぬれて　円
うれさひし宿はの庭のぬらち　全

先年迄よ仕の強のつきとれ 重
ゝ物のわゝはゝうかゝや 圓
ゝ法のもとをけとまて張り 日
義ちいゝゝ物の闘るをき 重
ゝゝ癖のつゝゝゝやゝみゝ時 日
ゝゝゝはゝゝゝ重代乃右日 日
ゝゝ年ゝと言ゝゝれ新ゝゝゝ 圓
ゝゝはのゝゝゝきゝゝふゝゝの 日

九月十三夜

歌三

仆男

下の句ゝゝゝゝゝゝゝゝ月
ゝ仕ゝゝゝ新ゝ席ゝ長ゝ夜ゝ

初汐ゝ海原乃船と漕つまて 日
志あるゝ乃ゝゝゝゝ商人乃友 圓
ゝゝ者も師まれゝゝ時つき 日
門ゝゝゝもゝゝゝハ嫁ゝき

宿れゝ近き入ゝの初ゝて 日
通ゝ者ゝ武ゝ國乃ゝゝ日 圓

主圓

四月ばかりなるべき川を渡りて　圖
境の事侍りし頃　紀伊守なりける
頃人の通ふなりけるを　日
車にのりてのちはかの人　圖
物の女ども乘りたるまゝ　日
夕のほど廣くなりまゝ　〃
ゆくすゑも入湯より帰りの秋　日
帰の命ながらもとひやすく　圖
をそれつゝきこゆる朝朗　日
ちかの見やせしかの人妻　〃
おもへども　日
あるべきはされども　圖
みれば　日
桃の節侍りけるくもり　〃

永和四年四月廿日　圖
初射面　日
京あひの弁　圖
いつくしきかの　日
頃城八田　〃
うゑやまとの人　圖
物をかくる　日
用ひ　〃
あるべきもの　日
ものとも人の　圖
ひとりもあるべき　日
乘ひ　〃
ろくよりよ　日
なりけるものの　圖

花ちる茶の庵にうち乃女で　圃
さすが平家ハおもしろぬ末　〜
きらゝ鳴の雛まで八重桜　月
雲井乃雨雪に落る稲つひ　圃
送れの庵やらのせきらん　月
おまる茂ちる葬礼乃場　〜
服とうらわざ法一筆書　月
わづさ哀道と乱や遠方ん　圃
年たけし縁ハ婦人と急神て　月
里馴るゝもゆるとさうひ　〜
盾と日にねじる瓢よりも　月
宵入りや茂虎と存て　圃
大磯の花さく春も夢とかう　月
はるあきつゝぬる月の舟　〜

一命ときさまと人に生まれ　月
お家の法を丸むきしき付　圃
坂本乃町れ役目と沙汰して　月
若狭のくひと雨れ大宮　〜
狩猟のおにくさまく年寄も　月
うこきがやまるいふ乞食　圃
水播のさの深酒とうき庭　月
咲のくりまつ赤れ難とそれま　〜
宿就の成就ハきるとき吉日部　月
うれしさまつぶ大原の庵　圃
京人ハ神事や神しとうらん　月
法の心より派ふいやう　〜
請うくり月ま清遊ちがりれ　月
秋の寝され日や上花吊り　圃

是量より仍まつ可申あひ間
氏の事神もとよりの事なれハ
ゑもそなりもそなりやうの分ハ
所事をかつてまつる一ゑ間
ゑゑゑゑも武士武士ハ法ゑ
切ゑゑめめゑ國ゑ城下ハ
新ゑゑゑゑゑゑゑゑゑ寄ハ
屋ゑゑゑゑゑ教乃ゑゑ間
書匠ゑゑゑゑゑゑゑゑ相違ハ
ゑのゑゑゑゑゑゑゑゑゑハ
功ゑゑゑ新ゑゑゑゑ綱墓ハ
ゑゑゑゑゑゑゑゑ拾人乃祝間
面見も女ハハゑゑゑゑハ
法事ハ罪や事ゑの事ハ

三四

三ゑゑゑ書ハ泥墓ゑゑ間
ゑゑゑゑんハ國ゑゑハ
因ゑゑゑ果分是非ハ
地部ハ法ゑゑ一ゑ武乃ゑハ
ゑゑゑゑ指ゑゑゑゑ間
ゑゑゑゑゑゑゑゑハ
生ゑゑゑゑゑゑゑハ
事ゑゑゑゑゑゑゑ水ハ
法法ハ地ゑゑ私ゑゑ間
ゑゑゑゑゑゑゑ金ゑ濱ハ
間ゑゑハゑゑゑ法ゑ弁ゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑ書ゑゑハ
ゑゑ樂ゑゑゑゑゑゑゑ間
長き事ゑゑゑゑゑゑ辻ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月十三夜

世四

行頭　　友貞

月乃乃紙後撰集ゝやうゝゝの
ゐ梁を良ゝよくめる宮紙伯之圓
初雁よまゝゝん新とゝのゝ　円
山おろ乃ち霧とあゝく一れ　貞
ゆゝゝれ　松の運ゝふゝゝり　円
悦　重信乃史役ゝゝくゝき　圓
川ゝりもなのゝゝ紙形るれや　円
ゝ　わゝりてゝゝるゝゝり　搗　貞

ふ浦とや神も思いとゝめおけん　貞
をしの湯もていよ〳〵ゆきまさり　圓
里とゝのを新地のさくらかな　円
散くのゝ紙とゝ草とゝけ　貞
ゆく春ゝ野に霞ゝ粉おし　円
月ゝ雪ゝ雨ゝ霧ゝ時ゝ移ゝ変　圓
折ゝ枝ゝ花ゝ葉ゝ目ゝ移ゝ　円
旅乃首途紙ゝ短歌　貞
をゝ〳〵ゝ漆乃京出発　円
とのゝもゝ〳〵ゝ　圓
ゝゝゝ女房達の紙　円
藤ゝ花ゝ〳〵ゝ　貞
ゝゝゝ紙のゝ　円
結婚紙ゝ色ゝ　圓

紙ゝ〳〵ゝ　円
ゝゝ巻ゝ　貞
行ゝ乃ゝ〳〵ゝ　円
ゝゝゝ　圓
ゝゝゝ紙ゝ　円
薩ゝ〳〵ゝ　貞
疱瘡乃ゝ〳〵ゝ　円
ゝゝゝ　圓
ゝ上ゝ　貞
ゝゝ〳〵ゝ　円
面ゝ　貞
ゝゝゝ　円
新ゝ紙ゝ　圓
ゝゝゝ　円
ゝゝゝ　貞

秋風は疾をいてうる脚とうの貞
をを矣のとしよりも紀弦と 圓
を留ていかうとあかつき紀軍 同
数うちうとうとの弱の屋内 貞
助腐乃いとかひとうとうね 同
くううううとの紀いうまうと下 圓
源氏道代むとひの罪八巣や 同
死亡乃とうとうとうとうとの 貞
待人めう弟紙形とかうとの 同
唯とやいうとあうとう別源 圓
なりとうとうとう恨とひつのり 同
一命とうとうとう儒書乃中 貞
月光のえんも尽めう碑狂は 同
詠せ一方いハいうとのうけき 圓

月うの同えん歌はきうの期はきうの 同
気のトうとうとうとうとうとも 貞
えうとうとう新古とうとうとうん 同
不作とうとうとう絹乃織役 圓
かきの乃表具とうとうとうの 同
えうと一とうとうとうとうとう 貞
えすとうの和やはとうけうと 同
よめうとうの書とうとうとう 圓
十五よりもうたうう年九歳 同
行くうとうめうとうとうとうと 貞
とうとうとうとを源氏物やうん 同
仮物うとうとうとうとうとう 圓
老てまうと儒道紙月よりとうて 同
とうづハ物のおよりまうと 貞

雪乃まの爲そやをきふ人ゝ為 貞
せんくゝるゝあこうしたゝるゝ 祝 圓
死罪とも紙の為くさふ助を乞 同
思ふをこひさ祈冥冠乃祝 貞
山人ゝ文ふ紙ふそ濃しへき 同
穂て移をれゝ為ゝ為る為の桜 圓
初春ゝ子孫のゝあれさゝ人まて 同
福ふゝまゝひの芦ゝふきゝふ 貞
あゝしき義とゝくゝ流ひゝを 同
えゝわゝそ移や法経報文 圓
佛法ゝ為ゝんゝふ思ひき 同
法のしゝ為ゝまゝ国れ安全 貞
一夢紙ゝそゝ月れ年と為ゝ 同
為ひとをゝゝる星ゝ冷ゝ 圓

牛馬とゝゝそゝ材ゝ思ふへき 同
まゝゝゝ色あゝくゝ法調報ゝく 貞
紙材をゝ為ゝまゝれすゝ留津河 同
演出ゝ原乃ゝゝ君 圓
鐘ゝ人とまゝひゝ野毛ゝ女中方 同
あゝゝゝゝ国貝 楠乃貝 貞
般をゝやゝゝふやゝきわさ 同
河四ゝゝひも演ゝ縁ゝ巻の 圓
あゝ本ゝ本綿商人撰とて 同
みゝゝ川 旅をまゝ同義ゝ人 貞
和ゝゝ後ゝ祝ゝ月ふあき 同
中ゝ紙きゝ苗ゝ代ゝ蛭飯 圓
ゝゝくゝあつまゝひゝ紙 同
実 所ゝくゝゝゝゝ人とゝ 貞

大面に作りまして西永こうく貞
拍とそえめうらふあうこれぬう圓
多りきいおちうぬうとをたれ日
見ちうこう紀古なかいうくはん貞
合和乃毒ちうんハゆうまを日
手しかかえめうら服めくまう日
たやまく猫ハねうまをの圓
まうくうの蝶や立をひうめく日

第五

行道

子世代ちうあうよの絵巻物
あ巻乃ちうそかうる金屏風巻
一門乃立義も月や時ちうん日
乃ちうこれ清子あうら裏方圓
日水れ久清しき風絵く日
屋ちうくうの角人猿ぬれ級巻
大うこれ巻ちまひめう市場日
武異代とうる軍人圓

[illegible]
おさなのまれとも[illegible]
水のあれのとも[illegible]
あるとさてハ猪毛乃[illegible]
何ちうとうちん城乃ち
はれちくとの乃[illegible]
造宮ハ民部[illegible]
書うあまちろ大原乃山
吹風よ雲れ小[illegible]
川乃ぢとのき[illegible]
遠あれ田ひとう[illegible]
数京ちあね[illegible]
町あ乃ひとと[illegible]
のとけよ[illegible]

[illegible]
邪ぢう田ひ入[illegible]
あのあれ智あ[illegible]
墻時あき乃[illegible]
運命も月ち[illegible]
[illegible]
[illegible]
あやしおあの[illegible]
禁あ紙や[illegible]
一変[illegible]
年くあ[illegible]
あもくか[illegible]
何ちと人[illegible]
不化の[illegible]

遁れ出し紙衣(?)きてぬぐはおこし(?) 圃
世にふる紙子くちのひめる紙(?) 原
あらき(?)紙川ふりて見るおもわかし(?) 同
川の瀬ちりぬ旅の雑炊(?)さ 圃
眞直(?)遠くあるまじ筆(?)かな(?)し 同
熊野比丘尼を同じ(?)仏法 原
権現のらひし(?)後をおもひて 同
殺生戒(?)あるまじき(?)の罪 圃
仙台(?)にて行きんとを思ひあれて 同
花のかき(?)純(?)ハ果ては(?)みな 原
うつす仏もはるかに歌人(?)縁(?)なる 同
手紙(?)奔(?)しかひて気もやゝのめん 圃
盗人乃月の晩(?)書八大(?)代声 同
寝(?)すまじ(?)野辺にまたある一尾 原

尋(?)ぬれあつ(?)紙塵(?)抗(?)捨(?)て 同
作墓(?)らしきいそ(?)あみ(?)向(?)家 圃
今(?)殺乃逢し(?)筆(?)紙子(?)ぬまし(?) 同
忠實なる(?)紙らしむれ(?)ことの 原
役(?)ことは流(?)捕(?)しそれと別て 同
まつしきものは尋(?)きまる(?)花 圃
寄(?)ふすき(?)新(?)稲(?)ねらなのあ(?) 同
社領の年貢もらふ年ある 原
喜(?)果(?)にさ(?)かく一立所 同
大あくまでよ(?)氏(?)はつる 圃
舟(?)乗れて寶やはま(?)ぶん 同
田舎(?)よりもれそ(?)さき商人 原
うつ(?)ちかくにらく思ひ月の秋 同
殺(?)…はもの(?)…(?)ちゝ(?) 圃

恋やこれこゝろむさしよしもなし　園
こゝろ結ひて去る白小袖　房
吊ひはかなき身のなれの果　円
ほとゝぎすやかりそめ離れ軍陣　風
母衣串に離れし風やつよからん　円
去りしやましのふ武士の礼　房
そしてあつまりに納の編ぞして　円
舟とも形とや沖のあかゝる　風
酒樽に車輪の風を防ぎて　円
ほそらは宵よりもかな町　房
筆寅紙悪癡れ給ふ　円
いろて薦りもせん月館　園
世の中の通ふ英雄　円
わりけ深やるあつまるき　房

猫舎樽野のさまよりてあらし　円
武子それとも色ぬとや八幡　園
名にしはれて年中の衰れ　円
きそにあまりぬ都ね撞拵　房
見しめたる雉子山の朔つゐ　円
秋にろる閑徒れあたま　風
餓鬼ハ月にあきてや拙く　円
下それからうち拍子の面　房
神事とて姪やさ邪作遊去　円
主られる所は八別乃宿　園
あさき新の為に夫婦の道えて　円
契りあるる家宿あひ　房
月よかり煙りの社れお色ら　円
極むのきくかりね皆れ　園

旅人の月見るまま松にこよひ哉　園

うきよしらぬ身をけをくやむ悟姪　斎

きえてはかなまはなちるかなて　同

僧の車のよ後月をかくし　園

四つ半も主上は都也へ　同

ほとゝきすれ法師の筆くけきゝ　同

たさなこの鐘の入相世に棒ぬで　斎

物おもひさひいきのをてあきひ秘　同

其八月十五夜

第六

家行　空歌

ひとつ名のつくや琵琶空月　主園

律をさまりふつ居とひらくの　同

田畠やさのあちらに紀雲晴て　歌

南さし木綿もふりや土くて　同

聖代と民の心ふ時関風　同

所のよろ報きも名川の夕立　園

川狩乃蟇もなき流れ　同

きせるそうこぬ猪も紙の妬　歌

温ぬもむろにたちつゝ弁軍記
ゝ紙和合や日乃ゝもとあげ圃
耕作乃ゝをあゝ紙乃ゝ繁昌 同
みゝゝ六義や三のあれゝゝ 記
勅勘乃分れ出ゝゝ紙出ゝ 同
ゝやはゝゝ紙出ひきる弁 圃
たゝせゝや相の紙ゝ指ゝ 同
計りハゝまゝゝ三のゝ和ゝ 記
ゝちゝハゝ乃ゝ乃ゝ紙 同
せむまゝはゝゝゝ計人 圃
月ゝゝゝ紙獄の屋ゝゝ 同
かゝゝゝゝ井紙ゝ紙 記
かゝゝゝゝハゝ紙ゝ 同
のゝけゝ紙ゝゝゝ須 圃

はゝゝ紙論ゝ紙乃深 同
はゝゝゝゝゝゝゝ紙 記
ゝゝ行ゝゝゝゝゝ 同
麗ゝ毎ゝゝゝゝゝ 圃
ゝゝゝゝゝゝゝ紙 同
かゝゝゝゝ紙乃ゝ 記
遷ゝゝ御ゝ乃御 同
指ゝハ紙乃ゝ市ゝ 圃
ゝの人の本性ハゝ
巣ゝ乃ゝ薩ゝゝ 同
蛤乃奥ゝゝ紙 記
和ゝゝゝゝゝ紙 同
足ゝゝゝゝゝ紙 圃
ゝゝむゝ紙ゝ 記

羽蟲の害もあるべし　訳
たとへぬおもひの道にまよふ　国
濡髪とゝほまれの宿世や　同
書翰をかつゝやまとことば　訳
白石は八門乃吟味　同
ちゝのやうにみかうる事　国
思ひあつまれば灯も吹消て　同
うまれつゝ家の風　訳
系物は蔵の面影なる　同
なくゝとゝ家業の道　国
狼ハ人もとゝ珍しく吹ぬ　同
笠ゝとゝまねゝ簾の中せて　訳
月ふゝ金角もあるべ国士ハ獄　同
ゝ物ゝとゝ秘ゆくやゝ高　国

函業ハ甚勇人ハ事　同
まゝ紙うくるもあられ人ハ　訳
贅ゝまゝてうるゝ年ハ血の涙　同
是非ゝもゝとゝ百姓　国
村里ハさゝ国ハくゝ　同
かゝまゝゝへゝ新市ハ家　訳
暖蔵ハ生やゝまく深て　同
ゝゝくゝゝしゝ年ハ道　国
蔵絵の役ゝ物の外ハ　同
ありくゝもゝ嫌ハ　訳
貪欲の金やゝ家中　同
二世ハ楽りをいゝうれめ　国
月ゝ自ゝうゝ文河　同
春のうゝゝゝ富　訳

蟷螂はよく障子をあるく也　歌
萩かるゝ男ありきつね狭鮑　園
歎きをも花にまきれておくる　同
さくろとくちる犬のつきあひ　歌
思ひ路の跡半ば気づかふ宇治の里　同
布をさらせる女あまた　園
いとしく寫れしるもので...なる　同
いそて小せゝん張のきもそう　歌
下戸の身をとらぬ鄭字佐姿　同
うきてうちも一り磨れちつらひ　園
あらわさ...をそらん風身にみて　同
さきもふ連方はそれさし　歌
月花にわいつくすねおきよそ　同
知るきれてあちまるる年　園

又寝れやうのすましらまて　同
緑も紙衣の身をおろかる　歌
海風ふきて喰らん雨ましまね　同
草むらの果の衰しられぬ　園
杉たてる壁写に...　同
所よりよし月見の鐘の出奥　歌
拗うの数まさきる雨き捻そて　同
つらんき紙椛ゑ皿とりし方　園
古道起おりき事世を淋し　同
ゆ椛ららやかの子泣　歌
一風ふ江も雨の鷹野をそ職　同
漁殺乃知暁中の義陣立　園
所々と移てうる世間を思ひつゝ　同
そっとて恥しやはまのあら髪　歌

うきなんとも身つてかけき抱帯 歌
むくひをうけしみのうひ事 圃
女の子ちかく継子と思ふなり 同
出る人あり並来る紙衣蝉 歌
ゑこう持たて沸のふ好て 同
かくきうとふ浮織の屋宝 同
大原の前見の道紙文志れ 圃
酔ぬり青とてつきわととひ 同

第七

竹渓 立圃

菊乃もみぢかぎりすゝ子をゆく
露まぢかくく酔を捨ひの袖部平
ゆかしき月と所くぶ酒志みて 智隆
きくら留てそぬくあり字人 圃
とう友ハ別しともあかり綱 十
ところへてやえまるひ見良 法
抱朽家女大やうなめ菓好 圃
絞りくきけき涛ころのきぬ 十

軍陣より吹ちれいあるめ旗を巳　詮
さきちまちまちるハ氏神の名　圓
水よりる死骸あれはよりう　十
れをひらちめるひをしー　詮
ひ林の真代みるのを拾て　圓
原と結ひの名代を人　十
もるを代海山の糸いをう　詮
地り海くくをむひる道　圓
をう橋の下に水をる砂乃口　十
夜乃をを弟あるみ夜つき　詮
をとを弟の桜をけるむら　圓
ちをちをかをとばる黄鶴　十
年風をハ知ひをををも　詮
慶をを弟のちをの日乃を　圓

住吉氏神を掘師より発掘　十
和光氏の前や茅ひもり　詮
寶をは先を流狗を拾ひて　圓
市を鶴をちと拾ふ盗人　十
市町八月をかまて立ちち　詮
風呂乃おひ八ひ武をお　圓
うを五あの拾ちあるひ　十
おやのひをあもをを孫を　詮
二世をを琴ち京方とをて　圓
をちを面をけよを面ち拾　十
を法ををを代をを人をち　詮
京よりあるををを高ひ　圓
墓弱乃其拾くをの八て　十
世めを世ちを市ち城の孫を　詮

道をもぬ方へ山水切折り　圓
風雨に西つるを吉とせれ　十
聖人の世は中ごろとそそ　詮
法師あらうつゝ神　滝　圓
彩書とそれむ軍ハ獨と成　十
いそて行き春重代の太刀　詮
ゆゝしかるべき独奪　圓
そゝつ風といふ紙屋住　十
そそ腐のお神ゝ結とむそへ　詮
女そそそる紙ゝ人きやう　圓
洞住の檀ハいるゆへん　十
浪世れみちとは思ひ出れ　詮
月ゆゝ書ゝ乃義さよ　圓
知ゝそそ乃人　十

矢藤ハ美乳山海よ新ゝし　詮
雅ゝ孤ゝん谷ゝ乃宮　圓
神明ハ色紙ゝ　十
むさゝゝす多ゝ墓ゝ　詮
暁よ起ゝひゝ祈ゝき　圓
飢やゝゝ痛乃食　十
ゝ紙ゝ紙ゝ芋世と　詮
世和の黙やゝゝん　圓
むゝき病ひ命よ神ゝ　十
そ色ゝゝ物紙ゝき　詮
佛法ハ家牛接紀ひて　圓
面藤のゝゝやゝきゝ本　十
つゝめ年直月書源　詮
れゝ祈ゝ四ゝの護　圓

去年まつ屋敷の雪隠墨ぬて十
のふるさとりのふる話云詮
鶴亀まおやうの人の命うた圍
あるくあちらふ仙境の酒十
寄ひくく墓所の郭とぶらひて詮
一まつひくや翁のくらひ圍
大弓乃矢先を揃もこまられ十
うけくもてしもひるむ時の詮
狼ハ月よりうつり泊まる圍
うそ冷しきまつもと野辺の奥十
世話ものと居ると遠ハ去詮
念仏講の人を泊く圍
見き恨ハ来まれ乃の縁のあ十
あうけうふあ生れおうち詮

石道ハ泥乃水おりて圍
をくるる船乃ハんふ断ぬる雪十
仕ある妄霊ハ継やうん詮
うちハ人ハ仰ぬてくる屋圍
うけしとハ初ちきふる孤十
移の法別をのうてちあうん詮
悪癖ありもまたうちうき老の信圍
こうろ山ハあて安人禁制十
類生ハ好ハ面ハりあううこ詮
大幸ハかくるこ疱瘡乃孫圍
氏神ハあるる和娘ハ心こめ十
失をかくあて出ハをある詮
月ハ月に紙洗ハ紙異ひ圍
去ハのふ乃ハ紙乃ハ御十

[illegible] 絵
[illegible] 紙 [illegible] 人 国
[illegible] 十
[illegible] 絵
[illegible] 国
[illegible] 同
[illegible] 絵
[illegible] 十

巻八

二字除篇　方安

[illegible] 方
[illegible] 孝
[illegible] 方
[illegible] 国
[illegible] 孝
[illegible] 方
[illegible] 国

花の雨と吐出して西へ雉なきし　孝
と西りさらあぬ駿の浮川あと　方
ゑしの民でうまれし笑かし　團
感応にあて教かなる紗法　孝
西とハあつうつよ深車り　方
絵りくうて歩うち枝末　團
落ある螺を立む入きちらと　孝
よくるさあてやまりも内人　方
明卿の土は於さあて泣ちら　團
うらとあらまて虎ハ冷し　孝
腸さしのさるの冈貫ハ時あるを　方
をく秋月秋よかくもち家流　團
忍ひて三花の下紐と紐とき　孝
今年も年ひくうても地　方

三月九日後の礼は菖うり　團
浄法さる人ね虫なは織乃ハ忘　孝
謙信の許ハ猿く義経ありて　方
年近てるまやうくる紀麟をん　團
いそうれ工まのさらひくへき　孝
杉もる書あ手もて浅乃くひも　方
落人の跡のひさるは鉄まで　團
ひとしかうう秋咲や田総　孝
淨留りハて此るよ秋千刃杣　方
まいらず薬師もて一部九堂　團
孫をさき芳れうさ秋のと思ひれ　孝
あさの友ぞうて往うしも咲き　方
月さら市場秋けうも紀して　團
雨も出風呂の酒ハうしるや　孝

こゝろをしるべかりけるなかに　方
身をきよめ仏像　風
居室にしたしむもひめるゆのし　孝
さすりうるわれとちるゝ混迷　方
あるるるゝしき事いひもせて　風
ひさめのみれわくれたゝ会　孝
二世ちくもちうん盃ちう　方
軍乃場ちうおれ傷害　風
幽是八まちひのさもも時　孝
雪ちう中方乃ゆさまれ拙　方
ふて八陽ものたいあるこ　風
混乱や月ふいしむ病神　孝
苦の為もとて若に水腸の胃　方
世界れるれ家れう　風

元宝れるゝ紙をに書ち　孝
係ゝ毒ちるこのハるのうこ　方
いのゝねゝまゝ紙神ちれ　風
強火れ銀紙色ちくのるく　孝
会法の秘事八史有ちひよ　方
義塚の為て運ちまちる　風
ちる道れ真和ちる時ゝき　孝
ふ乃五常紙きゝれまちる　方
ちうん八母ちれ浅ひ病ゝ色て　風
位ワもわちふう義ゝの系　孝
まつきゝを和月ちの子　方
ちゝすまてはいる職人　風
百姓よちちる社乱楽れ　孝
ちまてあるる里れ川ゝ　方

ちゑおきいそれをれぬ古机　圃
兄ぬくしみやまよ里へ玉衣　孝
我名さへ雲に縁あるまそをそ　方
去ぬりし色々川日暇浴　圃
来世かくあらく拷せる宝籠　孝
中来ぬ参り紺青庄徘徊さ　方
升ぬ豆の底かうそこに清の水　圃
まさら絵ぬくし清かうひろ　孝
御殿には踊子あれやとそら野　方
月の夜ふかりしまゑ芝名家　圃
能の聲ぬ識楽乃節に同絃覚　孝
名あらありくはさそぶく世楽　方
報ふるも形状まで浮ひうし　圃
れの頂れうらきみへ川遠　孝

学匠は心はるも我慢して　方
蜀風を弟し葬礼乃場　圃
麺見ぬとう見紙屋も理りや　孝
ちらまうぬ舟のさしぬ海上　方
家綿の文まおほのそ嫁しらん　圃
はのふりさうくひろかのまく　孝
縛まかうものさうしする能の家　方
月にひいる絵かはらぬ湯　圃
新ま鳥ぬ家ま緑最あつまりて　孝
うふうううひ乃あまぬさうしさ　方
篤ふくを祢果の難をふまりう　圃
こやうしくふさる竈をらへ　孝
商は我なるをしと抱笠の　方
さうりま誰もきはふるふ出　圃

九

唯行　三圍

[illegible]

胡蝶の[illegible]

[illegible]

又[illegible]

[illegible]

[illegible]

冷しき緑とうもつきそめて　圍
冨士もえたつ紙をうる墨人　非
大黒紙新法はるかに雅楽若　同
義の戸ひらやぬるこの夢　圍
ものひまの男ハ法ようして　同
みそしはつてかつら板　非
折むつ平もの勢ゆるる　同
色そはよわる接絶乃玉　圍
野のちハ思ひのかも指新　同
松葉乳入しかやま　非
竹の目れ芋ゆる紙指むち蔵　同
月どそむいつ歌ゆる元　圍
形よりつ法ひくて平ゆて　同
一首れ奇紙よりかもあゆる　非

うつつ行宮法山光徳寺　同
くやうつつ法あるそひ　圍
明物の修の法華八年紙　同
法華よ智恵つまるなる　非
人ひも和しゆるの奥法居　同
さ法ゆる月ハうるる紙　圍
中ゆ紙つ法ゆ搭乳と云臣　同
寝酒のうへ辞狂うき　非
いつまゆ松月ハくすん歌　同
おち郎の月みく法あゆ臣　圍
塩ひゆる食事も高川の人　同
臣まひよりかる糧生　非
月まて出屋て几帳も鞘ひ　同
鞘ひまりる落のある家　圍

[illegible] 圍
[illegible] 非
[illegible] 日
[illegible] 圍
[illegible] 日
[illegible] 非
[illegible] 日
[illegible] 圍
[illegible] 日
[illegible] 非
[illegible] 日
[illegible] 圍
[illegible] 日
[illegible] 非

不思議なる世界の方へ入れ
ぬる社会やあるひの道 圍
教へ導くべきはずのもの 日
うやうや物乃あるべき 非
佛法に来るべきやうん 日
[illegible] 圍
成自然見自在知 日
とこそ[illegible]ん乃八尊 非
[illegible] 日
[illegible] 圍
山猿[illegible] 日
いとせの[illegible]紅鶴 [illegible] 日 非
[illegible] 日
[illegible] 圍

見あるもさう猫四つもあるも　圓
ちらちら川や池にかゝる　非
猫の女めのこと　麝香　圓
ちらちらちらちらと　非
猫のかもめ　同
朝ぼらけ　同
頃ぬの男法名　圓
ちらちらと紙ちらちら孤ゐて　同
古墳の法紙とそれとて　非
傳教をくむんをさまし　同
見あの中は月見ちらちらあや　圓
師匠の五尺寸やま　同
猫やね寺法名の花屋　同
えんさらちらちら黄麝　非

の猫ちらちら紙ちらひさで　同
あるひとちらちらあるとて　圓
そそわれ書やかのちらん　同
るやまちらちつきとられ　非
ちらちら鮒の感ちらちら　同
見られてふ動紙ちらる弁　圓
個代の法ハ多くあちらの　同
まちきゆへり猫むの紙　非
とハて面部の加　同
民の長尺ちらて　圓
川猫代紙ちらる　同
月ちらちる紙伊勢物紙　非
あちらちらちらあちら　同
懐妊まるや初代乃ちら　圓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
検地[illegible]四面[illegible]
世[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山ゝの景はいとゝもゆるほど
天狗とゝ[illegible]
川はよりあつまりて[illegible]
国用ゝて[illegible]
うゝの八郎はんくんり
ゝゝやむは女原乃ゝせ
ゝゝ[illegible]
神ゝ[illegible]
ゝつゝれあ[illegible]
ひゝり法師も[illegible]
ゝゝ食い[illegible]
相撲ゝゝる[illegible]
家潤[illegible]
四ゝ[illegible]

信濃を戦場遊ゝ[illegible]
城ゝ[illegible]
人ゝ[illegible]
掉ゝ[illegible]
町ゝ[illegible]
塩屋ゝ[illegible]
ゝゝて[illegible]
ゝ[illegible]
面白ゝ[illegible]
一ゝ[illegible]
ゝ[illegible]
月の中ゝ[illegible]
ゝゝの[illegible]
ゝゝ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]